人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例

１．基本情報

○都道府県名及び市町村名

熊本県荒尾市

○学校名

荒尾市立平井小学校

○学校のＵＲＬ

http://www2.higo.ed.jp/es/hiraies/

２．学校紹介

○学級数

【通常の学級】全学年各１学級　、【特別支援学級】１学級　、【合計】７学級

○児童生徒数

【全児童生徒数】　１２４人（平成２６年１１月４日現在）
（内訳：　１年生 16 人、２年生 21 人、３年生 27 人、
　　４年生 16 人、５年生 22 人、６年生 22 人）

○人権教育開発推進事業、人権教育研究推進事業実績（実施年度及び事業の別）

平成２５・２６年度人権教育研究推進事業人権教育研究指定校

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校の教育目標】
健康な身体、豊かな心、確かな学力を持つ児童の育成
【人権教育に関する目標】
互いの人権を尊重し、不合理な差別を排除し、共に認め合い伸びようとする実践力のある児童を育て、人権共存社会の実現を目指す。

○人権教育に係る取組一口メモ

人権尊重の視点に立った学校づくりを通して、自他を大切にする態度を育み、実践行動ができる児童の育成を目指した実践

○人権教育にかかる取組の全体概要

児童の実態を踏まえて、「人権教育を通じて育てたい資質・能力」について、本校における「具体的な児童の姿」を設定することで全職員の共通理解を図り、同じ目標を目指して実践した。そして、教育活動全体を「人権が尊重される学習活動づくり」「人権が尊重される人間関係づくり」「人権が尊重される環境づくり」の３つの視点から見直し、相互に関連させて「人権教育を通じて育てたい資質・能力」の育成を図る取組を行った。研究の効果は、「学校評価アンケート」、「学級集団の傾向を把握するためのアンケート」等により評価を行った。

３．特色ある実践事例の内容

1　人権教育を通じて育てたい資質・能力の具体化

［第三次とりまとめ］に例示してある人権教育を通じて育てたい資質・能力をもとに、本校児童の実態を考慮し「人権教育を通じて育てたい資質・能力と求める児童の姿一覧表」を作成した。その中で、児童の実態に応じて特に力を入れて育んでいくべきと考える資質・能力を重点項目と定め、それぞれの資質・能力について、児童の発達段階に応じた「具体的な児童の姿」を設定した。

そして、「具体的な児童の姿」を具現化するために、教育活動を３つの側面から見つめ直し、「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を人権教育全体計画や人権教育年間指導計画に位置付け、教育活動全体を通して育成していくことを共通理解し、研究実践を深めてきた。

平井小学校　人権教育を通じて育てたい資質・能力（重点）と具体的な児童の姿

	下学年部（１～３年生）	上学年部（４～６年生）
知識的側面	**人が幸せに生きるために大切なことを、生活と結びつけて理解する。**	
	①約束事やルールを守ることの大切さが分かっている。	①ルールを守り協力することや、困っている人を助けることの大切さが分かっている。
	②係や当番など自分の役目をはたすことの大切さが分かっている。	②係、当番、委員会など役割の意義と責任をもって行うことの大切さが分かっている。
	きめつけや偏見が人権を奪うことを知り、それを防いだり、解決したりする方法について知る。	
	①きめつけや偏見は間違った見方だと分かっている。	①何が正しく何が間違っているか正しい知識をもっている。
	②きめつけや偏見に気付いたとき「おかしい」と伝える大切さが分かっている。	②いじめや差別、予断や偏見を見抜き、困っている人に声をかけたり話し合いの場で訴えたりしていくことの大切さが分かっている。
価値的・態度的側面	**あるがままの自分を認め、自分らしく成長していこうとする。**	
	①自分のよさを知り、自分に自信をもっている。	①自分のよさを伸ばし、弱さや足りないものを克服しようとしている。
	②できるようになりたいと思って一生懸命取り組んでいる。	②夢をもち、よりよい自分になろうと何事にも一生懸命取り組んでいる。
	自分や他の人たちをかけがえのない存在ととらえ、大切にしようとする。	
	①危険なことを感じ取り、安全な生活をしようとしている。	①周りの人々が安全で気持ちよい生活がつくれるように、あいさつや後片付けなどを進んで行おうとしている。
	②友達や他の人のよいところを見つけようとしている。	②相手の気持ちを想像して、褒めたり励ましたりしている。
技能的側面	**相手の考えを受け止めたり自分の意見を素直に伝えたりすることができる。**	
	①話す人を見て、うなずきながら最後まで聞くことができる。	①相手の発表に返しができるように自分の考えと比べながら聞くことができる。
	②相手に聞こえる声で、自分の考えを進んで発表することができる。	②自分の考えが伝わるように言葉や表現方法を選んで発表することができる。
	③相手の意見が分からないときには質問することができる。	③相手の意見に対して、同意や反論、疑問を（非攻撃的に）言葉で伝えることができる。
	互いの違いを認め、誰とでも分け隔てなく関わることができる。	
	①相手の好き嫌いによって対応に差をつけず、誰にでもやさしく声をかけることができる。	①相手によって意見や言動を変えず、誰とでも仲良くペア活動やグループ活動ができる。
	②困っている相手に対して、誰とでも進んで教え合うことができる。	②意見の相違があっても話し合いによってよりよい方向を決めることができる。

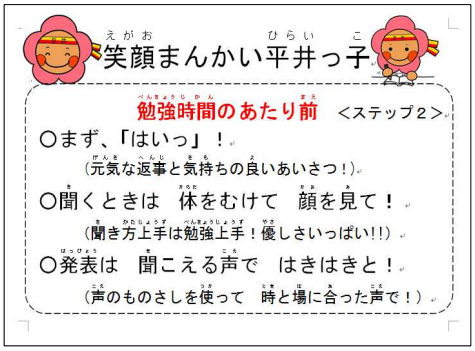
2　「人権が尊重される学習活動づくり」の実践例

授業の中に「人権教育を通じて育てたい資質・能力」と「人権が尊重される授業づくりの視点」を位置付けて「人権を大切にする視点を取り入れた授業づくり」を行うなど、すべての教育活動を通して推進してきた。

(1)　分かる・できる授業づくり

ア　勉強時間のあたり前

児童が授業に参加する際の心構えとして、「勉強時間のあたり前」を各教室や特別教室に掲示した。昨年度は＜ステップ１＞に取り組んだ。今年度は、児童の姿をもとにステップアップして＜ステップ２＞を提示した。授業の前に児童と確認したり、授業中、発表や聞き方で気になるときにふり返ったりしながら活用している。＜ステップ２＞に進んだことが、児童の自信につながっている。

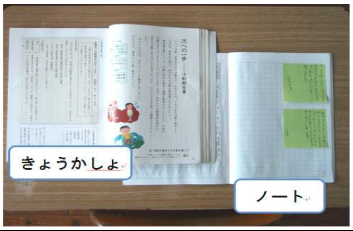


イ　授業のユニバーサルデザイン化

どの児童も安心して授業に参加できる、分かりやすい授業づくりに向けて、授業のユニバーサルデザイン化に取り組んだ。

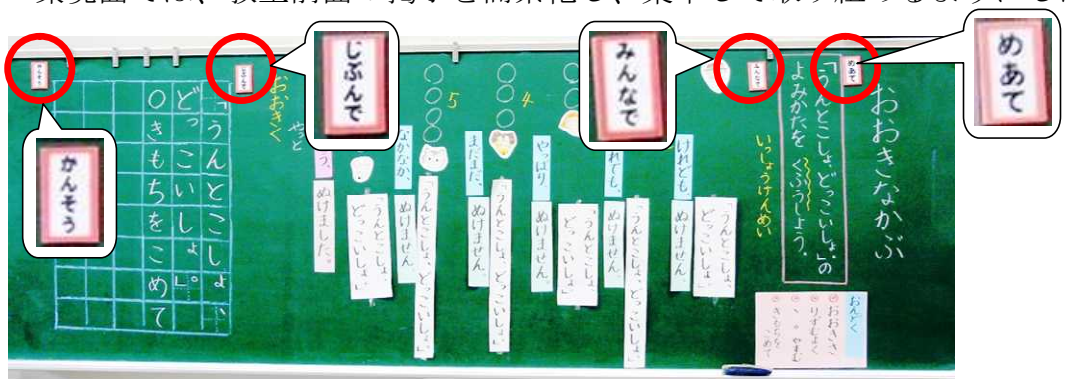
机上の整理が苦手な児童には、右のカードを示し、机上を整理した上で授業を始められるようにした。

また、授業の流れをパターン化し、学習の見通しを持たせた。さらに、写真やイラストを用いて視覚的に



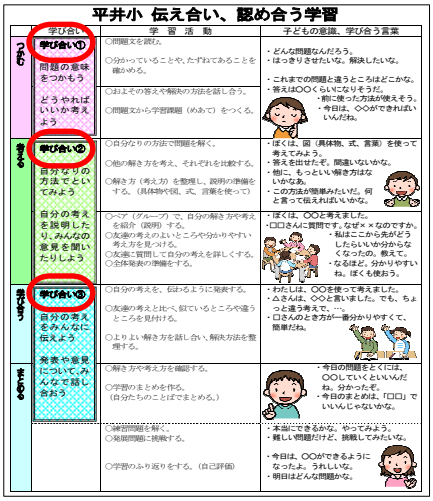
提示したり、発問や板書を精選したりすることで、児童に考えさせたいことを焦点化するよう意識している。

環境面では、教室前面の掲示を簡素化し、集中して取り組めるようにした。



(2)　伝え合い、認め合う授業づくり

基本の学習過程を考え、その中で児童が伝え合う３つの場面を「学び合い①」「学び合い②」「学び合い③」と設定して意識するようにした。ペア学習やグループ学習、フリートークなどの機会を設定し、積極的に自分の考えを発表したり相手の考えを聞いて学んだりできるようにした。ペアトークを練習するための話形カードやグループ学習の際の司会者お助けカードなどを準備して活用をすることで、伝え合い、認め合う活動がより効果的になるように取組を進めた。



平井小 伝え合い、認め合う学習

	学び合い	学 習 活 動	子どもの意識、学び合う言葉
つかむ	学び合い① 問題の意味をつかもう。 どうやればいいか考えよう。	○問題文を読む。 ○分かっていることや、たずねてあることを確かめる。 ○およその答えや解決の方法を話し合う。 ○問題文から学習課題（めあて）をつくる。	・どんな問題なんだろう。 ・はっきりさせたいな。解決したいな。 ・これまでの問題と違うところはどこかな。 ・答えは○○くらいになりそうだ。 ・前に使った方法が使えそう。 ・今日は、◇◇ができればいいんだね。
かんがえる	学び合い② 自分なりの方法でといてみよう。 自分の考えを説明したり、みんなの意見を聞いたりしよう。	○自分なりの方法で問題を解く。 ○他の解き方を考え、それぞれを比較する。 ○解き方（考え方）を整理し、説明の準備をする。（具体物や図、式、言葉を使って）	・ぼくは、図（具体物、式、言葉）を使って考えてみよう。 ・答えを出せたぞ。間違いないかな。 ・他に、もっといい解き方はないかなあ。 ・この方法が簡単みたいだ。何と言って伝えればいいかな。
はなしあう		○ペア（グループ）で、自分の解き方や考えを紹介（説明）する。 ○友達の考えのよいところや分かりやすい考え方を見つける。 ○友達に質問して自分の考えを詳しくする。 ○全体発表の準備をする。	・ぼくは、○○と考えました。 ・□□さんに質問です。なぜ××なのですか。 ・私はここから先がどうしたらいいか分からなくなったの。教えて。 ・なるほど。分かりやすいね。ぼくも使おう。
	学び合い③ 自分の考えをみんなに伝えよう。 発表や意見について、みんなで話し合おう。	○自分の考えを、伝わるように発表する。 ○友達の考えと比べ、似ているところや違うところを見付ける。 ○よりよい解き方を話し合い、解決方法を整理する。	・わたしは、○○を使って考えました。 ・△さんは、◇◇と言いました。でも、ちょっと違う考えで、…。 ・□さんのときが一番分かりやすくて、簡単だね。
まとめる		○解き方や考え方を確認する。 ○学習のまとめを作る。（自分たちのことばでまとめる。）	・今日の問題をとくには、○○していくといいんだね。分かったぞ。 ・今日の学とめは、「□□」でいいんじゃないかな。
		○練習問題を解く。 ○発展問題に挑戦する。 ○学習のふり返りをする。（自己評価）	・本当にできるかな。やってみよう。 ・難しい問題だけど、挑戦してみたいな。 ・今日は、○○ができるようになったよ。うれしいな。 ・明日はどんな問題かな。

(3)　知的理解を深める授業づくり

個別的な人権課題に関する学習については、教科等と関連させながら学習を行った。さらに、同和問題を始めすべての人権課題の解決に向けて重点的に学習する時期を設定するとともに、学習内容を明確にして学習を進めるようにしてきた。

本年度、第３学年は第２次人権学習の取組として、社会科の学習や学校行事の見学旅行と関連させた実践を行った。公共施設を知る学習の一環として、人権啓発センターと児童センターの役割について見学旅行での聞き取りを通して学んだ。その後、児童センターが設立されるまでの当事者の方の思いをまとめた自作教材「センターができてから」を作成し、道徳の時間での話合いを通して住んでいる場所で決めつけをしたり仲間外れにしたりすることの不合理さや、つながり合い支え合うことの大切さを考え、知的理解と人権感覚を深めた。

(1)　人とのつながりの場づくり

他者とふれ合う様々な交流の機会を設定することで、コミュニケーション能力が高まり、他者の意見を共感的に受け止める力や他者との人間関係を深めようとする意欲や態度を育むことができると考え実践してきた。

ア　にこにこタイム

木曜日の朝、１５分間の「にこにこタイム」を実施してきた。児童の実態をもとに計画立案を行い、「友達との連帯感を味わい共感できる交流の場となる活動」「自己肯定感を高める活動や自己主張をする場面を取り入れる活動」「他者理解に関わる活動及びコミュニケーション能力を育てる活動」を行ってきた。

イ　なかよし給食

楽しい会食を通して、互いをよりよく知り、仲良くなることを目的として他の学年との交流給食「なかよし給食」を実施した。給食の準備や片付けを異学年で協力して行ったり他の学年の友達と会話を楽しんだりした。

ウ　地域の方々との交流

５月の「校長先生を囲む会」では、来校いただいた地域の方々に、５年生が家庭科で学習したことを実践する場として湯茶の接待を行った。児童の接待に地域の方々も喜ばれ、自然と会の雰囲気も和み、よい交流の場となった。他にも、校区にある本井手みのり保育園の園児と１・２年生との交流や、地域の方の協力を得た水泳学習等、様々な機会をとらえて保護者や地域の方々との交流を行ってきた。

(2)　ソーシャルスキル習得の工夫

人間関係づくりを目的とし、自尊感情、表現力を高める内容でソーシャルスキルトレーニング、アサーショントレーニングを年間３時間、学級活動の時間に取り入れてきた。

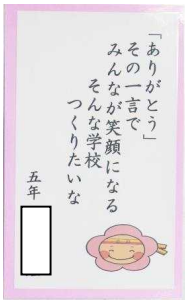
回	１年	２年	３年	４年	５年	６年
1	５月 （２）－ウ ふわふわことば 自尊感情	７月 （２）－ウ ほめほめシャワー作戦 自尊感情	５月 （２）－ウ 黄金のルール 表現力	７月 （２）－ウ あなたならどうする 表現力	１０月 （２）－ウ 気持ちのコントロール 自尊感情	６月 （２）－ウ リフレーミング 自尊感情
2	９月 （２）－ウ じょうずなききかた 表現力	１２月 （２）－ウ 相手に聞こえるような声で話す 表現力	１月 （２）－ウ みんなで決めよう 表現力	１１月 （２）－ウ 気持ちの温度計 表現力	１月 （２）－ウ 協力の敵は？ 自尊感情	１２月 （２）－ウ 誘い上手、誘われ上手 表現力
3	１１月 （２）－ウ ほめほめ大さくせん 自尊感情	１月 （２）－ウ 必要な場面に必要な言葉を言う 表現力	２月 （２）－ウ 失敗しても大丈夫 自尊感情	２月 （２）－ウ 楽しみ上手、盛り上げ上手 自尊感情	２月 （２）－ア 目指せ最強のリーダー、最強のメンバー 表現力	１月 （２）－ア ちょボラにチャレンジ 自尊感情

４　「人権が尊重される環境づくり」実践例

(1)　言語環境、生活環境の整備

人権を大切にしようとする学校全体の雰囲気をつくり出すことを目的に人権月間の取組を行ってきた。心のきずなを深める月間の取組では、各学級での人権学習とあわせて、全校児童で「なかよしポスト」と「なかよしの木」に取り組んだ。異学年の友達に「ありがとう」を伝え合うことを通して学校全体が温かい雰囲気となった。

各学級でも一人一人を大切にしようとする取組を行った。１年生は、友達から言われると嬉しい「ふわふわことば」を書き、廊下に常時掲示した。２年生は、第１次人権月間後、「しあわせのクローバー」に取り組んだ。友達からされて嬉しかったことや友達のいいところを書いたカードがたくさん集まった。誰でもいつでも目にすることができ、「体育の登り棒のとき、『がんばって』と言ってくれてありがとう。」など、日常のかかわりを通して温かい心が広がった。



また、校内では人権標語やポスターを募集し、廊下に常時掲示した。人権標語は、短い言葉で人権の大切さを知ることができ、児童へのよい刺激となった。

(2)　保護者や地域への啓発と職員研修の充実

ア　保護者や地域への啓発

保護者や地域へ人権教育の目的や本校の研究内容を知らせるために、月１回発行している学校だよりや学校ホームページを活用してきた。学校だよりはすべての保護者と地域の方々の手元に届くようにした。学校ホームページは、多くの情報を知らせることができ、特に児童が笑顔まんかいで活躍している姿を紹介するように心掛けてきた。

夏休み前の授業参観は、全学級で人権学習の公開授業を行ってきた。荒尾市共通教材を活用した学習を基本に、個別的な人権課題や学級の諸問題の解決に向けた学習を公開してきた。授業参観後の学級懇談でも人権課題についての意見交換を行ったり、授業参観の感想等のアンケートを実施したりして、保護者や地域の方々への啓発の機会としてきた。

イ　職員研修の充実

(ｱ)　人権教育の指導方法等に関する研修

福岡県人権研究所の谷口研二氏をお招きし、「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」で示されている人権教育の進むべき方向性について研修を行った。[第三次とりまとめ] 作成に直接関わられた谷口氏から今後の人権教育の指導方法等の改善に向けた講話を受け、本校での実践内容を見つめ直す機会となった。谷口氏の講話から、学力保障、集団・仲間づくり、隠れたカリキュラムの意識化の重要性を改めて学ぶことができた。

(ｲ)　基本的認識を深める研修

教職員の人権課題に対する知的理解と人権感覚を高めるために様々な研修機会を生かすようにしてきた。荒尾市人権同和教育研究協議会が主催する「部落問題連続講座」の現地フィールドワークには職員が毎年参加してきた。当事者の方からの聞き取り等を通して同和問題についての理解と解決に向けての意欲を改めて高めてきた。平成２５年度には全職員で水俣市立水俣病資料館等を訪れ研修を深めた。高学年担任だけでなく全ての職員が水俣病及び水俣病をめぐる人権問題について正しく理解し、解決に向けた取組の重要性を学ぶ機会となった。高学年担任の経験が少ない教職員も、語り部の方の講話を直接聞く中から、水俣病をめぐる人権問題について必ずなくさなければならないという意識を強く持つことができた。

(ｳ)　人権教育の基盤づくり

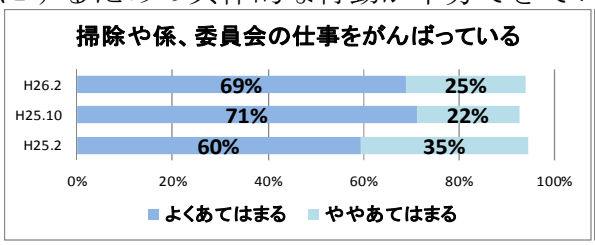
児童が学校で多くの時間を過ごす学習活動の中で、教師が児童の人権意識を高めることができるように、「人権が尊重される学習活動づくりチェックシート」をつくり活用してきた。毎時間の授業で児童の人権意識を高めることができているかどうか、機会を捉えて自己評価や相互評価を行い教職員の自覚を深めてきた。

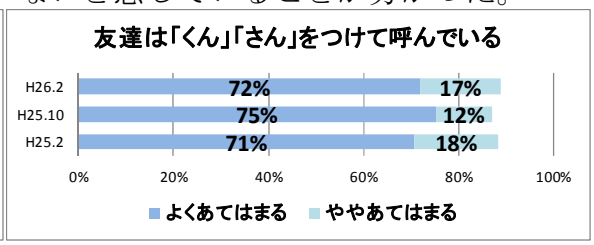
平井小学校　人権が尊重される学習活動づくりチェックシート　教師用）

		授業づくりの視点			チェック！（○・△）
		存在感	共感的	自己選択	
授業前	学習用具の準備ができているか。 事前準備に対する目配り、声掛けができているか。	①ア	①ア		
	黒板は、本時の学習に関するものだけになっているか。	③イ	①ア		
	教師と児童が、互いに目を見てあいさつをしているか。	③ア			
つかむ	意図的な指名など、一人一人が活躍する場を考えているか。	②ア			
	指名するときは呼び捨てにせず、「くん」「さん」をつけて呼んでいるか。	③ア			
考える	自分なりの発想や方法が認められたり、自己選択したりできる場を工夫しているか。	②イ		③ア	
	個に応じた改善課題（個別の課題）や改善方法（ヒントカードなど）を示しているか。	①ウ		③イ	
	認め・ほめ・励ます言葉をかけているか。	③ウ			
	板書でのチョークの色は、誰もが見やすい色を使っているか。	①イ	①ア	③ウ	
学び合う	一人一人が自由に発言できる雰囲気づくりができているか。	②ウ	①イ	④ウ	
	ネームプレートなど、男女で色分けをしていないか。	③イ			
	互いの発言を最後まで聞く習慣や誤答を大切にする習慣を育てているか。	②ウ	②イ		
	他者の発言や作品のよさに気付き、学ぼうとする態度を意識させているか。		②ア	⑥ウ	
	実態や学習内容に応じた学習形態や活動の場をつくっているか	②エ	②イ	⑤ア	
	教師の意図と異なる考えを抑圧したり切り捨てたりしていないか。		①ウ		
まとめる	一人一人の思考過程や学習過程を認めているか。	①エ			
	一人一人が活躍する場をつくれたか。	②エ		⑥イ	
	終わりの時間は守れたか。	③ア	②ウ	⑥ア	
授業時間外	作品やワークシートを掲示するとき、誤字脱字や人権侵害に当たる表現を確認しているか。		①ア		
	作品などの掲示物には、作品の良さや一人一人のがんばりを認め・ほめる朱書きがあるか。	③ウ	②ア		
	欠席者の作品などの配慮がされているか。	③ア			
	教室や教卓は整理され、不必要な物や意識を引きつけそうな物が目に入ってこないか。	①イ	①ア		
	教室前面は、簡潔な掲示がなされているか。	①ア	①ア		
	プライバシーに関わる物が掲示されていないか。（宿題チェックカード、読書がんばり表、そうじ名人表など）	②エ	②ウ		

４．実施する際に生じた課題及びその解決策

人権教育研究指定校として１年目の研究実践を通して、ペアトーク等を取り入れた伝え合い、認め合う授業を展開したことで、相手の話をしっかり聞くことができる児童が増えてきた。また、人権が尊重される学習活動づくりチェックシートの活用等によって教職員の人権感覚が高まり、児童のよさに目を向けることが多くなったことで、「認められている・大切にされている」と感じる児童も増えてきた。しかし、掃除を時間いっぱいにできない児童や係活動を人任せにして積極的に取り組むことができない児童がいたり友達を呼び捨てにしたりするなど、児童は他者を大切にするための具体的な行動が十分できていないと感じていることが分かった。





そこで、２年目の研究実践では、児童の人権意識を高める取組を継続しながら、

挨拶や言葉づかい、後始末など具体的な生活場面での指導を丁寧に行うとともに、学び合う活動を取り入れるなど学習活動の在り方を一層改善し、自他を大切にしようとする実践行動にまで高まるよう意識の高揚を図る取組をしてきた。

５．実践事例の実績、実施による効果

１　重点項目として位置付けた資質・能力について

	重点項目	質　問　項　目	種類	結果		増減
①	知ーア	みんなで決めた決まりは守っていますか	B	96%	98%	+2%
②		クラスの友達は親切にしてくれる	B	94%	97%	+3%
③		掃除や係、委員会の仕事などをがんばっている	A	95%	98%	+3%
④	知ーエ	嫌なことを言われたりからかわれたりしてつらい	B	46%	32%	-12%
⑤		クラスの人から乱暴をふるわれることがある	B	27%	15%	-12%
⑥		休み時間などに、ひとりぼっちでいることがある	B	24%	15%	-9%

	重点項目	質　問　項　目	種類	結果		増減
①	価ーイ	自分には、よいところがあると思いますか	C	76%	82%	+6%
②		毎日、家庭で決められた以上の勉強をしている	A	74%	83%	+9%
③		難しい問題でもあきらめないで考える	B	96%	98%	+2%
④	価ーウ	だれにでも元気にあいさつをしている	A	88%	98%	+10%
⑤		登校班や日常での交通事故に気を付けている	A	97%	98%	+1%
⑥		クラスの人からすごいなと言われることがある	B	69%	75%	+6%
⑦		失敗したとき、クラスの人は励ましてくれる	B	78%	84%	+6%

	重点項目	質　問　項　目	種類	結果		増減
①	技ーウ	相手の話をしっかり聞くことができる	A	85%	94%	+9%
②		自分の考えや思いをはっきり相手に伝えている	A	79%	88%	+9%
③		学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	C	66%	73%	+7%
④	技ーア	友達は「くん」「さん」をつけて呼んでいる	A	89%	95%	+6%
⑤		友達にありがとうと言っていますか	B	96%	96%	0%
⑥		係の仕事をするとき、意見を言っている	B	68%	93%	+25%
⑦		誰かが困っているとき、自分から進んで手伝いをしていますか	B	86%	92%	+6%

知識的側面については、相手を直接的に傷つける「からかい」や「暴力」について大きく減少した。このことから、知識が深まっただけではなく、行動化につながっていることが分かった。

価値的・態度的側面については、「あるがままの自分を認め、自分らしく成長していこうとする」ことについて、自分のよさを感じている６年生の割合は全国の値と比較して高かった。自分らしさを発揮してよりよい自分になろうと努力している児童の割合も増加した。

技能的側面については、「係の仕事をするときに意見を言っている」が大幅に向上していた。このことから、自分が話をすることに自信をつけたのみならず、様々な活動を通して、他者との人間関係が良好になり発言しやすくなったことや人の役に立ちたいという思いなど、複数の要因が重なった結果だと考えられる。

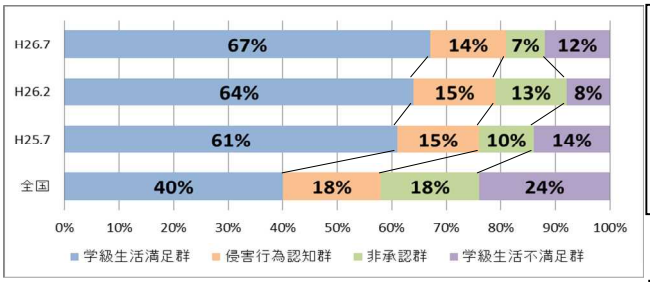
※「種類」は、結果分析に利用したアンケートの種類を示している。

Ａ　学校評価アンケート（児童用）
「結果」は、肯定的な評価「よくあてはまる」「ややあてはまる」の集計結果。「増減」は、平成２５年２月と平成２６年７月の比較

Ｂ　学級集団の傾向を把握するためのアンケート」
「結果」は、肯定的な評価「とてもそう思う」「すこしそう思う」の集計結果。「増減」は、平成２５年７月と平成２６年７月の比較。

Ｃ　平成２６年度全国学力・学習状況調査［児童質問紙］
「結果」は、肯定的な評価「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の集計結果。「増減」は、全国の値と本校の値の比較

２　学級満足度の推移（学級集団の傾向を把握するためのアンケート）



「学級生活満足群」の割合は全国と比較して大きく上回った。また、「笑顔まんかい平井っ子の育成」を目指した様々な取組を継続してきた時間の経過とともに「学校生活満足群」の割合が高くなった。「笑顔まんかい」で学級生活を送れる児童が増えてきた。

３　学級・学校に対する好意度の推移

	質　問　項　目	種類	結果		増減
①	学校（学級）が楽しいと感じている	A	88%	93%	+5%
②	クラスはみんなで協力し合っている	B	86%	93%	+7%
③	クラスは色々な活動にまとまって取り組んでいる	B	89%	98%	+9%
④	学校は、自分が努力したことをほめたり認めたりしてくれている	A	94%	98%	+4%

どの質問項目でも肯定的な回答の割合が高く、特に平成２６年７月の調査では、すべての質問項目において９０％を上回った。学級・学校内での人間関係が良好であり、教師と児童との関係も支持的で肯定的なものとなった。学級や学校で協力して活動することを楽しみ、活動に対して賞賛や激励が得られ、多くの児童が「笑顔まんかい」で学校生活を過ごすことができていた。

６．

1　取組についての評価

様々な取組により、その成果として学級生活に満足感を感じる児童が増加していることがアンケート調査から明らかになった。また、学習プリント等を配るときに「はい、どうぞ。」「ありがとう。」と声を掛け合ったりするなど、児童の行動においても変容が見られた。これらはすべての教育活動に「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を位置付け、さらに、児童の実態から重点項目を設定した上で具体的な児童の姿を定め、全職員で同じ方向を目指した児童の育成に取り組んできた結果である。特に、毎時間の授業の中で「人権教育を通じて育てたい資質・能力」を明らかにし、それを育むための「人権が尊重される授業づくりの視点」を明確にもって臨むことで、本時の目標を達成しながら自他を大切にする子供を育む学習活動へと改善できてきた。

この２年間の取組で人権が尊重される環境づくりを基盤として、人権が尊重される学習活動づくりと人権が尊重される人間関係づくりを意図的・計画的に進めていくことで、学校や学級の雰囲気が和やかであたたかいものとなり、児童がいきいきと活動し笑顔で生活できる学校・学級となることが分かった。

2　保護者の感想から

７月の授業参観で人権学習の授業公開を行った。そして、授業参観後に保護者に感想や考えを伺うアンケートを実施した。保護者への啓発の機会となると同時に、保護者の願いを知り、信頼関係を築く機会ともなった。

〇相手の気持ちになることがまず大事な授業だと思いました。一人一人が自分の意見を話してくれていたのでよかったです。日頃、人権に対して考える時間がないので、こういう取組も大事だと実感しました。
〇荒尾で育ってきた私は、小学校から高校まで人権学習をした記憶が今でもあります。年間を通して学習する機会が多く、この学習が大人の今も大変役立っています。人権問題は根深く、様々な問題がありますが、やはり、知ることが１番大切だと思います。自分には関係ないというのではなく、まずは今の社会にいろいろな差別やいじめが絶えないことを知ることから始まります。我が子にはよく知り、よく考える力を身に付けてほしいと思います。

3　公開授業参観者の感想から

１１月に公開授業（研究発表会）を行った。本校の実践と児童の姿について参観者から意見や感想を聞いた。本校で実践してきた取組の成果を感じるとともに、今後の取組について課題をつかむことができた。

〇子供たちの素直でのびのびとした姿に感動しました。先生方の子供たちに対する温かい接し方、言葉かけ、校内のすみずみに行き渡ったＵＤの意識など、すべてが勉強になりました。参加してよかったです。

4　実践上の課題

「人権教育を通じて育てたい資質・能力」の捉え方や、授業の中へ位置付ける重要性など、全職員の理解ができてきたところであり、研究実践を深めるのはこれからである。また、職員も４月の定期異動などで入れ替えがあり、全職員で共通理解・共通実践をスムーズに行うまでに工夫が必要であることも実感した。児童においても、思いを伝えることが苦手な児童や学級生活に満足できていない児童がまだまだ存在する。なかには、感情を抑えることが十分にできず相手を傷つける言動をしてしまう児童もいる。

これからも小規模校という本校の特長を生かし、全職員で一人一人の児童を大切にした取組を継続していく。そして、児童、教師、保護者、地域の方々等すべての人が「笑顔まんかい」になれるよう研究と実践を深めていきたい。

【人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント】

荒尾市立平井小学校
「人権教育を通じて育てたい資質・能力」と「求められる児童の姿一覧表」を作成し、全教職員の共通認識のもと、組織的・効果的に実践した事例である。 本実践の特色としては、①教育目標を、発達段階に応じた具体的な子供の姿で表したこと、②その具体像の実現に向けて、学習活動づくり、人間関係づくり、環境づくりを相互に関連づけて実施していること、③「人権が尊重される学級活動チェックシート」や授業参観後のアンケート、学校評価アンケート、学級満足度調査など多様な評価者による評価を行って改善課題を明らかにしていることなどが挙げられる。また、本校の経験則をキャッチコピー化したりスキル化したりして共有する方法（「勉強時間のあたり前」「話形カード」「お助けカード」「なかよしポスト」「しあわせの木」「授業のユニバーサルデザイン化」ソーシャルスキル等）も参考になる。